

… 雨でも休まず；第114、115、回 …

「若柳・嵐山の森」から

- 活動1：森林作業に注力：9月6日（第一土曜日）、参加費300円。
 - 弁当持参。
- 活動2：里山交流の活動：9月21日（第三日曜日）参加費500円。
 - 弁当は主食（飯かパン）だけ持ってくる事、自分の食器（箸・皿・お椀）も持参。
 - 副食は、会運営の畠のもので作る／同じ釜の飯を食うことが嬉しい。
- 申込必要：TEL & FAX 03-3411-1636
- 集合：8時42分、9時02分のJR高尾発。相模湖駅前：9時15分まで待つ。
- 服装；汚れても良い格好・着替え 着替え 足元が滑らない履物
- 持参品；軍手、万一の怪我に備えて…保険証写し
 - そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」
- 小原本陣の森：一時中止／砂防ダム建設のため

わが国の森林は、「歴史的に見て、良好に保存されています。中略…、しかし、ダム建設をせずに、森林整備などによる“緑のダム”で代替することは現実的ではありません …朝日新聞／7月29日付け関東新聞社連合会事務局

上記は、新聞の意見広告の一部である。「緑のダムが是か、非か」…長野県の田中知事に発してこの論議は、いろいろと言われている。昨年、大月で「桂川・相模川流域協議会」開いたシンポジウムでの基調講演での塙本良則先生の話では、意味が違っていた。治山治水技術の未発達な時代や燃料を山・森林に頼っていた時代、人口が増加して第二次世界大戦の物が無い時代に戦いのため、木を切り出さねばならなくなって山が丸坊主になった時代と比べればと言う事であった。

だが、経済エゴで国産材が売れなくなって森林が放置されて荒れ始めた今、荒廃の森林現場を知る者に取って上記の論は、極めて腹立たしい。現場を知らない者の評論に過ぎない。地球から森林が激減してCO₂問題も大きく論議されている時、良識の府：新聞が自分の国の事だけを言う視野の狭さも腹立たしい。

活動報告 1 / 第一土曜日活動：8月2日：若柳嵐山の森：

蒸し蒸しの薄曇りのこの日、
25人参加。以下、金児さんの
報告抜粋。

- ・天候不順の今夏、ヒグラシとアブラゼミと一緒に鳴き出している。杉幼木林の下草刈りを始めて3年、実の付き方の間隔などから、木の急成長が推測される。成長を妨害する下草の栄養分が回るようになった結果だと思う。
- ・無農薬栽培のトウモロコシをお昼に茹でて食べた。甘みとミズミズしさで旨かった。
- ・昼休みに大量に植えたヒマワリを見に行った。花はみな、太陽を向いているものだと聞いていたが、実際はあっちを向いたり、こっちを向いたりだった。



ムシムシ・ムンムンの真夏、25人が集まった。

◆ 刈り払い講習会から

- 1)肩掛けを正しくかけること
- 2)作業中は3m以上の距離をとること
- 3)作業者に声を欠ける時は、小枝を投げるなどしてエンジンを止めさせてすること

◆ チェンソー講習会から

- 1)起動時は、チェーンに巻き込む物のないこと
- 2)玉切り時は、切った材の転がらない工夫。
- 3)動く刃物側に足が来ないこと。
- 4)目立ては指定のヤスリを使うこと。
- 5)慣れるまでゲージを使って角度を正しくする

活動報告 2：小原本陣の森／一時中止：経過と理由。

森の入り口から100mばかりに1ヶ所、その先300mばかりの沢が二股に分かれたそれぞれの場所に合計3ヶ所の砂防ダム建設の準備が始まっている。そこは、我々が丁度、整備に取り組んでいたところだから以後2年ばかりは、手が付けられない。そこで、小原尾根と美女谷尾根を挟む大久保沢に代替地を調査していた。

大久保沢の突き当たり林道が切れた先の尾根に向かって入る辺りから小石交じりのザクザクの急斜面の植林地を候補に挙げて地権者調査などをしていた。森の入り口から3~40分程度の距離で森も深くセミプロ技術をつけている仲間でもいささか手強い感じで躊躇していた。そこで、17日、園田さんを同行して見てもらった。相談の結果、「うへん、これは慎重に考える必要があるなあ～、取り付いて中途半端にできないしなあ～、一度、鈴木さんたち(嶺さん、耕さん)と詳しく調べてみるか。活動方針も確認してからにしょう」と言う事にした。折しも、津久井森林組合との話し合いを明後日に控えていた事もあって、そうした。砂防ダム建設が必要かどうかについて大久保沢出口に民家が30軒ばかりあり、万一大災害の可能性を我々は、県の土木事務所から詳しく説明を受けていたし、砂防学の権威；塚本良

則先生のご意見も聞いて理解している。そんな場所に造成地を作った事には不審が残るが災害は、防がねばならない。県土木とも良好な関係で協力して取り組んで行く。

活動報告 3：若柳嵐山の森（8月16日～17日）

1、8月16日：緑のダム体験学校

天気予報では、雨は上がると言う事であったがザアザア降りの雨の中、損保ジャパンの支援する「環境財団」の浜井裕子団員引率による「エコ青年隊」は、東海大学浦安高校の登山部を指導した。この指導に「緑のダム／体験学校」のサポート仲間、斎藤校長・生態系：篠田授樹主任4人を含む22人が森に集まった。以下、斎藤校長の報告

お陰様で三回目の「緑のダム体験学校」が無事に実施できました。多くの方のご支援を頂きまして、ありがとうございました。初めてのキャンプは13名、雨の中の貴重な体験をしました。嵐山頂上の生態系観察、植生調査、間伐体験を16日午後から17日16時までジックリ楽しみました。高校生5名を中心に、損保ジャパンのエコ青年隊2名、会員参加4名、支援スタッフ7名、先生方4名、総勢22名となりました。

間伐体験中に大木の搬出隊に出会い、初めての間伐体験に苦戦していた若者に、気軽にノコギリの使い方、玉ぎりの方法などを指導して頂きました。こんな定例活動の皆さんからの暖かいご支援に、若い高校生たちが何を感じたか楽しみです。引率の先生からは学生の目の色が、変わってきたと礼状をいただきました。

2、8月17日：定例活動

小止みから徐々に雨も上がって、集合の9時30分にはスッカリと雨も止んだ。学生を入れて49人の参加。初参加の中川成洋さんの連れて来た「はるかチャン(5歳)」のあどけない仕種・言葉が集まつた仲間たちの心を楽しく豊にしてくれた。

「森林整備班は余程、注意して掛けられ、生態系調査班は、学生を中心に行ってくれ、畑班は、雑草抜きを中心進めよ」の園田隊長の指示に班は、夫々の部署に付いた。



雨も止んで、林道に人が溢れてしまった。

お盆休みを利用して静岡から駆け付けてくれた1年振りの“岡さん”の参加は嬉しく古参の仲間たちが岡さんを囲んで談笑に花が咲いた。語り部：榎本昭一さんの無農薬農法による大量の西瓜の差し入れは、食べ切れない程もあって、全く贅沢なものだ。

最後、初参加者の森林印象談で浦安高校の山下君が「もう、二度とこんな雨降りのキャンプは嫌だ」なんて言いながら目が笑っていた。

… 社会の注目を受け始めた我々の森林活動 …

1、園田安男さんの「F S C認証取得5ヶ年計画」

計画は予想以上の早さで進んでいる。「5年も掛らない3年」などと冗談もともつかぬ気合いも入って活動で本当にそうなりそうだ。課題ごとにチームを組んで「予備審査申請班」が立ち上がる事に成って、早ければ来年中に「瓢箪から駒」となりそうな気配。民間人による民有林のF S C認証は、他に例がないが「空気や水を供給してくれる森林への責任は、行政や林業専業者のものではない、我々民間人こそ、取り組むべき」と言うのが我々の主張。

2、篠田授樹さんの“生態系調査”

F S Cの認証条件の核の概略は、1)法律の順守 2)地域との調和 3)生態系保護 4)森林の便益 5)環境評価(モニタリング)に分かれる 3)について篠田さんの生態系は基礎調査が終わって第二段階のに入っている。里山に接し緩斜面から急斜面、広葉樹林・針葉樹林・混交林…、放置林と整備林の生態系比較など数年間に渡ってこの広い森林でいろんな調査が進んでいる。篠田さんご本人もこんな取組ができる事が「稀有なり」と熱心に取り組んでいる。この1年半の成果を整理して中間報告をしようと丸茂喬さんの経営するマルモ出版からこの秋、発行するを準備が進んでいる。

3、斎藤憲弘さんの「緑のダム・体験学校」

昨年10月、神奈川県／企画部に持ち込んだこの企画を企画部が「ウン、良い」と即座に事業に採用してくれて今月は“夏休み特別企画”として損保ジャパンの進める「環境財団：エコ青年隊」と共催した。4月が初回で今回で3回目になる。10月は横浜環境学習会、11月は食品連合と予約も続いている。斎藤さんの真摯で驚くべき熱心さがこの企画を素晴らしい内容にしている。その真面目さ熱心さを沢山の森林仲間たちが支えている。

4、加藤岑夫さんの「甲州古道復活プロジェクト」



甲州古道／吉野・与瀬境に集まったメンバー

相模湖観光協会が「旧甲州街道の道標つくり」を依頼して来た事に端を発して“小仏峠～笛子峠/約80km”的復活プロジェクトは全地域の人々が参加して、相模湖町を発し藤野町～上野原町～大月市を繋ぎ今月は、上野原町に入る。神奈川新聞や山梨日々新聞でも度々、取り上げてあるからご存知の方も多いと思うが、今年中に全行程を踏査して来年から埋もれた場所などの開削に入る。このプロジェクト3ヶ年計画の開削完了後には、「埋もれた甲州古道／歴史の道発見」というようなタイトルで発刊の予定。

- 5、その他…1)西 努さんの取り組む「定点養蜂」、
2)吉田恒久・伊藤小夜子さんの「流域通貨リバー」
3)森林所有者と流域材で家を建てたい人々の「F C C 運動：森林・繋ぐ・都市の人々」

森林の公益性と多様性を示唆する「改正／森林・林業基本法」の指導に従って、いろんな事を試みている。「素人が訳の分からん事をしている」と言う向きもあるが「森林は破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」と言う理念を掲げ「F S Cのガイドライン」の指導を受けながら確信を以て進めているからグラグラする事も無い。中傷や妨害を逆に励みにしている。確実に成果が見え始めていることも誇らしい。こんな成果を先月20日、神奈川新聞日曜版で全面で報道してくれた。パブリシティの理解と支援は、百万の味方を得たに等しい。報道を見て沢山の人々からの問い合わせと参加が始まっている。

● 未だ、話し合いの段階だが… 津久井森林組合と提携を進める

当会の理事であり津久井森林組合の理事でもある尾形侯夫さんのご案内で園田・石村の3人で津久井森林組合の佐藤組合長を訪問した。話し合いの結果、以下のような役割分担で提携を進める事にした。

- ・津久井森林組合／ハード面を支援：材伐出、森林技術指導など
- ・緑のダム北相模／ソフト面を提案：木材製品販売、新しい森林との取組提案など

素人集団の森林ボランティアがN P O法人になったからと言って森林については、ヨチヨチ歩きで社会的な認知も信用も未だ未だで、そんな中でプロの津久井森林組合が我々を受け入れてくれた。「N P O 緑のダム + 津久井森林組合」の提携は、新しい森林の姿を創出できるか。

● 森林所有者を直接・繋ぐ・流域都市部の人々／F C C 活動

1、純国産材の木造住宅見学：横浜市瀬谷区：7月26日

去る27日、4年前に純国産材のみで建てた横浜市瀬谷区の川俣さん宅と建築中の家を見せて貰った。純国産材のこの家が坪単価52.5万円で、ハウスメーカーによる住宅情報で認識していた常識をことごとく覆されてしまった。108年ものの檜の通し柱に木目の床、和洋折衷の住み心地良げ居住デザイン。木が呼吸をしているから適度な吸排出の湿度と僅かな冷暖房費。二重ガラスと天窓による換気装置やソ国産材木造住宅にして予想もしていなかった技術が各所に取り入れられていた。杉・檜は、お屋敷の話しだと思っていたが、手の届く純国産材住宅をこの目で見た。家の外観・室内インテリヤも洒落ていた。

2、「F S C認証の森」を取得した山梨の森を見に毎月、定期的に見に行って気付き初めている事がある。神奈川の森と明らかに違う森林の明るさである。F S Cの森の是非について、いろいろと論議があるが高知、三重の認証された森も、何かが違う。「認証」と言う言葉から影響を受けているかもしれないが森に意志がある。「認証を受ける」という意識と「認証を受けると改善しなければならない沢山の課題」を課せられる…と言うところに森林管理者が森林に意思を通すと言う事になったからでは無いだろうかと感じている。

*、山梨の木材は、神奈川で立米あたり2万円が相場だが、関西に運べば4万8千円で売れると言いた。同じ山梨の木材がどうして、こうなるのだろう。良く調べてみる。



無駄な費用を省き伝統と先端技術を集めて、純国産材の家が52.5万円でこのようにできる。家の中心に108年生の檜の通し柱が艶々と光る。既成の概念を全て覆させられた…問い合わせは、石村まで

国産木造住宅が流通に乗るか。

わが国では人件費が高いから国産材価も高く、売れないから森林に手が入らなくなり森は荒れている。

右の図式は、仮に3千万円の家が幾らで出来ていろいろどうかと言う概算である。3000万円の家1軒を、2000万円程度で建てた。流通を最短にして建てた実例である。

仮に30坪の敷地に20坪の住宅を建てるしたら木材が約15m³必要となる。国産材が外材の倍だとして流通している工法で3000万円で建っている家が2000万弱で建つと言う事だ。これは単純計算で、建てる技術・人・満足が得られる性能確保の問題が残るが、上記写真の純国産材の家が坪単価／52.5万円で横浜市瀬谷区に建った。冷暖房・換気・防音・住み心地など施主は、すこぶる満足している事は、前ページ1で書いた。桂川・相模川流域材を流通に乗せれば、45万円/坪が可能だと言う試算も出来た。素人に何が分かるなどと

*事例 3千万円の住宅

ハウスメーカー取分	1,000 塚
下請け取り分	500 "
正味住宅建設価格	1,800 "
(内、国産材割高分、300 塚)	

* 国産材割高分

外 材 2 塚 m ³	15 m ³	= 300 塚
国産材 4 "	"	= 600 "
差額		300 "

言わないで取り組んでみたら良いじゃないか。住宅産業は巨大で3000万円が2000万円で出来るとしたらマクロ経済に停滞を来さないかと言う問題解決も課題で、その方法の開発にも取り組んでいる。

* 「毎月、山梨の森と神奈川を往復する理由」



・昨年4月から「桂川・相模川流域の木材を大都市／東京・神奈川で流通させられないだろうか」と言う命題に取り組み始めた。素人にして課題が大きすぎると思ったが、続いている内に手掛りを掴み始めている。沢山の協力者も出てきた。

・複数の県内市町村自治体の環境部・建築部などを訪問して「相模川の流域材の使用が水源の森を守る事に繋がる」と採用をお願いしている。真面目に聞いてくれる部署もあり、部署も無し。積極的な協力をしてくれる人もおり、人もなし。

* 神奈川県には、37市町村がある。2年も掛ければ全部、回れるだろう。各市の首長を説得し、その地で頑張る市民団体と結束して環境保全と快適な住環境を働きかける。何、手分けしてやれば訳ないさ。

回って、各市町村の環境に対する認識の差も浮き彫りになるかも知れない。何か、集約した結果と新しい解決の方法も出てくる予感もしていて興味が尽きない。

・県庁と神奈川新聞社訪問／8月4日

水源の森政策に取り組む神奈川県・森林部部署を森林仲間の数人と連れ立って訪問した。有意義な意見と情報交換の場となったが過日、見てきた瀬谷区の川俣さんの家の話しあは、誰かが損をしているのだろうと信じて貰えなかった。継続的に損しながら商をする人はいない。他でも同じ事を言われるが見た事を話すより自分で実際に建ててみる事にした。

神奈川新聞本社に鶴田役員を訪問して当会を度々、新聞に取り上げて下さるお礼を言った。神奈川新聞は、地域密着型だから当会のような駆け出し団体でも真面目な取組は報道する。担当は、佐野と言う若い記者だが、当会の周辺事情も良く調べて正確な記事にしてくれている。



手を入れた森は、こんなに美しい… 真木の森

小仏関所跡

文化十年（1813年）、いまから190年前に編纂されたと言われる「新編相模国風土記稿」に、小仏峠を『武相二州境界の峠なり、甲州街道一條および小径を隔てて國界とす。往昔は頂上に關ありしが凝れ是を小佛關と呼ぶ、或いは富士見關と稱す』。さらに『ご入国後は今の駒木野に移せり。此所は甲州口の険阨（けんあい）にして一人隘を守れば萬夫向かい難き要枢成り』と記されています。

小仏峠は、往時より武州（東京都）と相州（神奈川県）の境界（鶴見）を接し、南の城山、北の景信山へ向かう峠道が境です。そして、小仏宿より谷線沿いに小仏峠へ登り、峠より下り稜線を小原宿へ降りる甲州道中が通っていました。この小仏関は、富士見関とも言われていました。

さらに、徳川家康が入府後は、駒木野へ関所を移しました（元和2年/1616年）。ここは、甲州への入り口で、険しく道が塞がれている自然の要所で、数少ない要員で多くの攻撃者に立ち向かえう事の出来る門戸を開閉出来る要害の地であると書かれています。

峠への登下山道と城山～景信山への峠道の四差路は鞍部を成し、往時には砦があり警備の鉄砲三十丁、弓三十丁が常駐していました。その後、小仏峠に関所設けられ八王子の千人が警備に当っていましたが、余りに人家遠き三中故に駒木野に移されました。

小仏の地名には諸説があり、一説には一寸八分の小さな仏像が安置されていたのが命名の由来と言われます。「ひばりより上にさぶろう峠かな」芭蕉の名句の小仏峠には、このような由緒があります。この小仏峠より笛子峠をつなぐ甲州古道復活プロジェクトが始まりました。次回は、小仏峠から小原宿までの甲州道中をご案内します。
(文責 中里)

* 中里先生は、至誠の教育一筋を生きて来た相模湖町の至宝と言うべきお人です。こんなお方に古道復活プロジェクト指導して頂き、甲州古道の歴史を紐解いて下さっている（研）

編集後記：手の入っている森と入っていない森は、歴然としている。明るさが違う。山梨県は、産業は森林県だから、森林を大切にしているのだろう“森は、明るい”。言いたくないが、神奈川の森は、暗いく寂しい。その暗い森を明るくしようと松沢知事は、頑張っているが、一方的な水源環境税の投入だとすれば反対だ。そうならないように生産性のある森つくりの手法を創出したいと当会は、活動している。そのためには沢山の人々の参加が必要だ。

- | | |
|--|--|
| 1) 9月6日(第1回) : 若柳嵐山の森
9時30分、森に集合、弁当持参
参加費300円、同日／運営会 | モットー／急がず、休まず、楽しく、無理せず、ボチボチ…
そして、沢山のご意見、参加下さい。 |
| 2) 9月21日(第2回) : 若柳嵐山の森
9時30分、森に集合、飯のみ持参
参加費500円、里山交流 | 名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人縁のダム北相模/森林部会)
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9
T & F／お世話係 石村 黄仁
協働団体／セブン-イレブンみどりの基金
H P : http://www008.upp.so-net.jp/kitasami |